

第9章 1. 開国と幕末の動乱 d. 公武合体と尊王攘夷

桜田門外の変の後、幕政の中心となった老中[1 **安藤信正**]は、[2 **公武合体**]の政策をとり、皇女[3 **和宮**]と將軍の結婚をすすめたが、[4 **坂下門外**]の変で老中をしりぞいた。
 こうした混乱に乗じて、[5 **薩摩**]藩は、1862年[6 **朝廷**]の權威を利用して幕政改革を要求、幕府は屈服し、かつての[7 **一橋**]派を中心とする改革派政權が成立した。([8 **文久**]の改革)

㊦ 薩摩藩による改革運動

・[9 **島津久光**] (藩主の父)、天皇の權威と薩摩藩の軍事力を背景に幕政改革案を強要(文久の改革)

將軍後見職[10 **一橋慶喜**]、政事總裁職[11 **徳川慶永**] (福井)、[12 **京都守護職**]松平容保(会津)を中心とする改革派政權が成立

→ 帰路、イギリス人殺傷事件を起こす([13 **生麦**]事件)

京都では[14 **尊王攘夷**]を藩論とする[15 **長州**]藩の動きが活発化、急進派[16 **公家**]と結んで朝廷を動かして[17 **攘夷決行**]をせまり、幕府はそれにおされ、攘夷決行を諸藩に命じた。これをうけ、長州藩は[18 **外国船**]を砲撃し、攘夷を実行に移した。
 これに対し、こうした動きに危機感を持った薩摩・会津の両藩は[19 **8月18日の政変**]をおこし、[20 **長州**]藩勢力と急進派の公家らを京都から追放した。翌1864年、[21 **池田屋**]事件が発生すると、長州藩は勢力を回復するために京都に攻めのぼったが、[22 **禁門**]の変で敗れた。
 これをうけ、幕府は[23 **長州征伐**] (第1次)をすすめて、こうしたなかで長州藩では幕府に対し[24 **恭順**]の姿勢をとる勢力が台頭、藩内尊攘派を弾圧、幕府軍は交戦しないまま撤退した。

㊦ 京都での[25 **尊王攘夷**]派の活動活発化(←[26 **長州**]藩の動き活発化)

↓
[27 **三条実美**]ら急進派公家を通して朝廷工作を強める→幕府に[28 **攘夷実行**]をせまる

↓
幕府、攘夷決行を命令(1863)→長州藩・外国船を砲撃、天誅組の変、生田の変など発生

㊦ 1863年 会津藩・[29 **薩摩**]藩など、公武合体派の公家と結び、長州藩と急進派公家らを京都から追放。(文久3年[30 **八月十八日**]の政変・七卿の都落ち)

1863年、[31 **池田屋**]事件発生、[32 **新撰組**]が尊攘派志士多数を殺害

㊦ 1864、[33 **長州**]藩など、武力による京都御所への侵入をはかり、撃退される([34 **禁門**]の変)

㊦ 1864 幕府、第一次[35 **長州征討**]を実施

→長州藩における[36 **恭順**]派政權の勝利＝幕府との和解成立＝[37 **尊王攘夷**]派敗北

1863年、[38 **長州**]藩は幕府の攘夷決行の命を受け、外国船を砲撃した長州藩は、ただちに外国船の反撃を受けた。さらに1864年には、イギリスを中心とする[39 **四国**]の連合艦隊が[40 **下関**]の砲台を攻撃・占領した。(四国艦隊下関砲撃事件)

また[41 **薩摩**]藩も、生麦事件の対応を巡ってイギリスと対立、1863年軍艦の攻撃を受けた([42 **薩英**]戦争)。こうした経験から、薩摩藩では、西郷隆盛や大久保利通ら倒幕派が藩政を掌握、[43 **開国**]論に転じてイギリスに接近、[44 **イギリス**]も薩摩や長州の倒幕派に接近した。他方、[45 **フランス**]は幕府への援助をつよめた。

㊦ 1863、長州藩、下関で外国船砲撃→報復攻撃を受ける

→1864 四国艦隊下関砲撃事件で列強に完敗

高杉晋作…門閥・身分にかかわらずの志願兵からなる[46 **奇兵隊**]など諸隊を結成

㊦ 1863年[47 **薩英**]戦争発生(←[48 **生麦**]事件がきっかけ)

→勝敗つかず、薩摩とイギリスの接近へ＝[49 **大久保利通**] [50 **西郷隆盛**]ら倒幕派が藩政掌握

㊦ [51 **倒幕**]派の成立…[52 **攘夷**]の不可能と[53 **幕政**]改革による政治革新を不可能と認識。

→幕府による貿易独占をきらい、幕府を打倒して[54 **統一国家**]樹立をめざす。

㊦ 列強…軍艦を兵庫沖に派遣、条約[55 **勅許**]を獲得、[56 **改税約書**]を締結・兵庫開港を迫る

→いっそうの不平等に

イギリス(公使[57 **パークス**])→薩摩・長州の[58 **倒幕派**]との結びつきを強める。

[59 **フランス**] (公使 ロッシュ)＝軍事顧問団の派遣など[60 **幕府**]幕府との結合を深める

e. 討幕運動の展開

いったん屈服した長州藩では、1864年[61 **高杉晋作**]が[62 **奇兵隊**]などをひきいて反乱を起こし、藩政を奪った。さらに[63 **大村益次郎**]らの指導のもとに欧米の武器を導入、軍事力の強化をはかった。これにたいし、幕府は[64 **長州征討**] (第2次)を宣言したが、[65 **薩摩**]藩はこれに強く反対、1866年には坂本龍馬らの仲介で[66 **薩長同盟**]を締結した。戦闘が始まって、幕府側は苦戦をつづけ、全国で[67 **世直し一揆**]、[68 **うちこわし**]の激発、將軍[69 **徳川家茂**]の急死を理由に戦闘を中止せざる得ない状態となった。

㊦ 1864年 長州藩において[70 **高杉晋作**]ら[71 **奇兵隊**]を率い反乱をおこす。

→[72 **倒幕**]派、藩政を奪取

㊦ 1866年 坂本龍馬・中岡慎太郎(土佐藩出身)らの仲介で[73 **薩長同盟**]結成

㊦ 1866年 幕府の第2回[74 **長州征討**]

・各藩の強い反発を受ける←各地で[75 **世直し一揆**]、[76 **うちこわし**]の激発

→1867年になると[77 **ええじゃないか**]の集団乱舞発生

・長州藩の徹底抗戦→各地で幕府軍敗れる→將軍[78 **家茂**]の死によって中断＝失敗